

■京都府障害者スポーツフォーラム概要

11月23日(木・祝)、グランドプリンスホテル京都において開催された、京都府障害者スポーツフォーラムの様子をお知らせします。

フォーラム開催の趣旨

本フォーラムは、東京パラリンピックの開催を前にして障害者スポーツ全体の機運が盛り上がるこの時期に、広く府民や企業等に障害者スポーツを認知してもらう機会を提供することで、障害者スポーツの競技力の向上と裾野を拡大する取り組みを進め、障害者のスポーツを通じた社会参加の促進を図り、障害のある人もない人もともに暮らせる共生社会の実現を目指すことを目的として開催されました。

本フォーラムが開催されたグランドプリンスホテル京都 プリンズホールは、今年度で29回目の開催を向かえる「全国車いす駅伝競走大会」の開会式会場にもなっています。

体験会会場

今回のフォーラムのために、京都で盛んに取り組まれている**卓球バレー**、城陽市のサン・アビリティーズ城陽にトレーニング拠点が設置された**パラ・パワーリフティング**、同じく京都駅近くの元京都市立山王小学校に拠点が設置された**車いすフェンシング**、リオパラリンピックで日本代表が銀メダルを獲得し、注目を集めている**ボッチャ**の4競技の体験会が実施されました。



パラ・パワーリフティング体験会の様子（体験者はパネリストの寒川進氏） ↑



↑ 卓球バレー体験会の様子

ボッチャ体験会の様子→



卓球バレーとボッチャは、フォーラム参加企業に加え、(一社)京都障害者スポーツ振興会の呼びかけに応じて集まったボランティアや、立命館大学産業社会学部の金山千広教授のゼミ生が中心となって和気あいあいと実施されました。

パラ・パワーリフティングと車いすフェンシングの体験は、東京パラリンピックを目指す選手を要する日本パラ・パワーリフティング連盟(JPPF)と、日本車いすフェンシング協会(JWFA)の指導のもと実施され、普段触れる機会の少ない障害者スポーツを間近で体験できるように設営されていました。

車いすフェンシング体験会の様子⇒



開会挨拶



山田啓二京都府知事による挨拶では、京都府ゆかりの障害者スポーツ選手の紹介や、パラ開催に向けたスポーツ支援を通じた共生社会の実現に向けた呼びかけなどが行われました。



芝田徳造(一社)京都障害者スポーツ振興会顧問からは、自ら振興会を立ち上げられたこと、京都での身体障害者スポーツ大会以降の振興会の歩みを踏まえ、今後も京都府における障害者スポーツの裾野拡大にむけて府民一丸となって進んでいくことを強調されました。

デモンストレーション

□パラ・パワーリフティング

IPC(国際パラリンピック委員会)公認の器具を用いて、リオパラリンピックに出場した**西崎哲男選手**が実技を披露しました。

12月2日からメキシコで開催される世界選手権に向けた調整中ということもあり、引き締まった雰囲気での実技を披露。楽々と96kgを10回あげ、この間、会場前方スクリーンには実技の様子が大きく映し出されていました。

吉田JPPF理事長からは、大会本番での試技の様子や見所を紹介。西崎選手は、実技後、サン・アビリティーズ城陽で来年開催される大会の紹介などを通して、パラ・パワーリフティング競技に対する支援を呼びかけられました。



↑ 西崎選手



□車いすフェンシング

小松JWFA理事長による実際の競技の流れに基づいた進行のもと、第一線で活躍する櫻井杏理選手と加納慎太郎選手による白熱した5本勝負が繰り広げられました。

目にもとまらぬ両者の剣裁きを参加者は食い入るように見つめ、結果は5対3で櫻井選手の勝利となりました。

小松理事長から、来年度、ここグランドプリンスホテル京都で全国大会を開催予定との紹介があり、大会観戦も含めた支援の呼びかけでデモンストレーションは幕を閉じました。

↓手前が加納選手、奥が櫻井選手



パネルディスカッション

「障害者スポーツが必要とする支援のあり方」、「障害者スポーツ指導員の充実について」をテーマに、学識経験者、現役選手、大会運営者、パラリンピックサポートセンター関係者という多彩な顔ぶれで意見交換されました。

□金山 千広教授



障害の有無を認めあうインテグレーション(統合)を超えた、障害のある人ない人に関わらず、個人一人ひとりの差を全員が楽しむ、インクルージョン(包摂)の状態を社会で目指すことが共生社会の実現のために必要と説明されました。

□寒川 進選手(写真左)

自らが携わってきた、今年度で第 29 回目を向かえる、地元京都で開催の全国車いす
駅伝や大分国際車いすマラソンの参加者数の推移をふまえ、選手が必要とする様々
な支援を当事者の視点で紹介いただきました。障害者自身が外に出て行くことの重要
性もお話しいただきました。

□時森 康郎氏(写真中央)

長年大会運営等の支援に携わってきた卓球バレーを通し、レクリエーションとしても活
用できる障害者スポーツの魅力を紹介された他、大会運営におけるボランティアや指
導員の重要性も説明されました。

□小澤 直氏(写真右)

障害者スポーツ団体の事務局体制が脆弱であることから、そのバックアップのために設
立した日本財団パラリンピックサポートセンター(パラサポ)の活動内容を紹介。パラサ
ポ設立当初に比べ競技団体を取り巻く状況はいくらか改善されたものの、今後も継続
的な支援(特に民間企業から)が必要であることが強調されました。



今回京都府と(一社)京都障害者スポーツ振興会が協力して運営準備を行っている、
「京都府障害者スポーツプラットフォーム」の取組が継続して実施されるためにも、しっ
かりとした財源の裏付け、またプラットフォームでの活動をとおした人財育成が障害者ス
ポーツ団体だけでなく、それを支援する企業側にも求められることを確認し、パネルデ
ィスカッションは幕を閉じました。 ↓プラットフォームのイメージ図

京都府障害者スポーツプラットフォーム形成のイメージ

多主体協働共生(山下秋二2016)

課題の共有 スポーツに必要な資源の共有 共同事業の展開



鈴木大地スポーツ庁長官基調講演



「スポーツ基本計画」をふまえて実施される、障害者のスポーツ実施率の向上や障害者スポーツの観戦率向上に向けた各種取組を紹介されました。

今回の京都府の取組は、民間企業による支援、団体運営の助成等、国が進めていく取組の方向性と一致するものであり、モデル事業として有効に機能していくことを期待していると話されました。

長官はその後、卓球バレー⇒パラ・パワーリフティング⇒車いすフェンシングと次々に体験会に参加され、会場を沸かせました。

↓パラ・パワーリフティング



↓車いすフェンシング



↓卓球バレー



閉会挨拶



松村 京都府健康福祉部長による閉会挨拶では、プラットフォームの取組がまさにこれから始まっていくこと、そして、行政だけでできることは限られており、趣旨に賛同いただいた方の協力があって初めて共生社会が実現することを結びとしました。

番外編: 作品展示・おみやげ

会場内には、京都在住の障害をお持ちの方による芸術作品の展示・障害者スポーツの写真パネルが展示された他、参加いただいた方々には、農福連携事業として取り組んでいるリフレかやの里作成のジャムのおみやげが配付されました。



↑ 会場内外に展示された障害者スポーツの写真パネルと芸術作品パナー ↑